

# 「我が国の未来の成長を見据えた『イノベーション・コモンズ（共創拠点）』の更なる展開に向けて」（最終報告書）の取りまとめ・公表について

令和5年10月

文教施設企画・防災部計画課

## 1. 背景・経緯

- 国立大学等のキャンパス・施設は深刻な老朽化。また、地域・社会の課題解決やイノベーションの拠点としての教育研究機能の強化が急務。
- 「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」（令和3年3月文部科学大臣決定）において、国立大学等のキャンパス全体で地域・社会や産業界等の多様な担い手が協働し新たな価値を生み出す「共創」活動を支える「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」を、ソフト・ハード一体で整備することを提唱。
- イノベーション・コモンズ(共創拠点)を具体化し、各大学等におけるキャンパス・施設整備の検討や産官学の連携の促進に資するため、有識者会議（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）にて検討を実施。

昨年10月に第一次報告を取りまとめ、このたび最終報告を取りまとめ。

## 2. 「最終報告書」の概要

- 以下の視点を中心に、基本的な考え方、取組のポイント、推進方策等を整理。
  - ・ デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備
  - ・ DX・GX等の成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備
  - ・ 地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備
  - ・ 多様な主体に開かれた魅力ある環境整備
  - ・ グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備
- また、今後の推進方策として、国が取り組むべき方策（予算の確保・充実等）のほか、各国立大学等の取組や地方公共団体・産業界への期待について提言。
- あわせて、各大学等における取組や検討に資するよう、国内外の大学等における先進的な取組事例を参考事例集として収集し掲載。

# 産業界・自治体との共創拠点（イノベーション・commons）

～老朽化したキャンパスから安全・安心なキャンパスへ～

## 国立大学等施設の現状と課題

■昭和40年代～50年代に整備した膨大な施設の更新時期が到来し、**安全面、機能面、経営面で大きな課題が発生**

### 安全面

老朽化による事故発生が頻発

### 機能面

スペース不足、教育研究機能の低下

### 経営面

エネルギーロスや事故・故障対応による財政負担の増大



外壁の落下の危険



配管の腐食



過密な研究室  
(機能低下と事故)



小割られて交流の生まれにくい教育研究環境

現状の国立大学の施設は老朽化が著しく、イノベーション創出に向けた共創活動にも未対応

このような状況を打破し、キャンパスの共創拠点化を進めるため、「国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議」（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）において、推進方策等を検討

大学等の老朽化対策を推進。老朽化施設の戦略的リノベーションにより機能向上も同時に図り、  
キャンパス全体を共創拠点へ

産業界との  
共創

大学の教育研究の  
機能強化

自治体との  
共創

【共通】デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備



キャンパスを実証の場として、研究成果の技術検証やビジネスモデルの検証を継続的に実施

①成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備



多様な交流を促進するオープンラボ

②地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備



屋外空間も含め地域と大学をつなぐ共創拠点の整備

③多様な主体に開かれた魅力ある環境整備



多様な学生・リカレント教育の場

④グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備



多様な交流を支える国際宿舎

# 我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・commons（共創拠点）」の更なる展開に向けて (令和5年10月 国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議)

『「イノベーション・commons（共創拠点）」の実現に向けて』（令和4年10月）の続編として、有識者会議（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）において、新たに、あらゆる活動に共通する事項として、「**デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備**」及び重点事項として、①**デジタルやグリーン等の成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備**、②**地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備**、③**多様な主体に開かれた魅力ある環境整備**、④**グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備** について更なる検討を行い、国立大学等施設の整備の考え方や取組のポイント、今後の推進方策等について、とりまとめた。

## これからの大学等に求められる対応

第1部  
第1章

- **国立大学等キャンパス・施設は**、我が国の高等教育と学術研究の水準の向上・発展を図るための「**国家的な資産**」を形成するものであり、**地域の貴重な「公共財」**。
- 国立大学等キャンパス・施設について、**教育未来創造会議における議論等も踏まえた以下の諸課題に対して、ソフト面での対応と合わせて、ハード面での対応が必要不可欠であり、社会課題や時代の変化に応じた更なる展開を図っていくことが急務**。

※「イノベーション・commons」とは、多様なステークホルダーが「共創」し、我が国の未来の成長を支える人材育成やイノベーションの創出等を行う拠点。

## 共創拠点の更なる展開に向けたキャンパス・施設等の整備の考え方・取組のポイント

第1部  
第2章

第2部

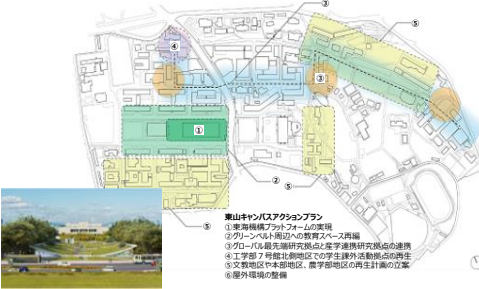
- **共創拠点は、ソフト・ハードの取組が一体となり、大学等のキャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーによる共創活動を実現する拠点**であり、**個別施設の計画のみならず、各施設や外部空間等の相互の連携を踏まえた、キャンパス全体の計画・整備が重要**。
- 我が国の成長をけん引する人材育成やイノベーションの創出等に向けては、**今までに大学等が蓄積してきた知の総体を最大限生かしつつ、新たな課題に対応していくことが重要**。
- 大学等を取り巻く状況の変化に対応して**共創拠点のあり方も多様なステークホルダーとの対話を重ねながら、継続的に見直し、時代の変化に応じた更なる展開を図っていくことが重要**。

### 【国立大学等の現状】

老朽化が深刻。旧来型の未改修施設では、研究室が小割された、たこつぼ化し、共創活動に対応できていない。

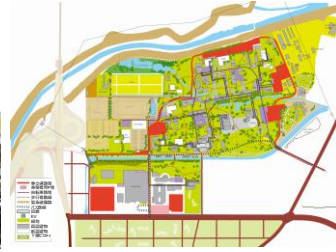


小割された教育研究環境



東山キャンパスアクションプラン  
① 東海地域プラットフォームの構築  
② グリーン・スマートキャンパスの推進  
③ グローバル最先端研究拠点・産学連携研究拠点の連携  
④ 工学部7棟敷地内での学生生活拠点の創設  
⑤ 文庫地区や本部地区、農学部地区の再生計画の立案  
⑥ 屋外環境の整備

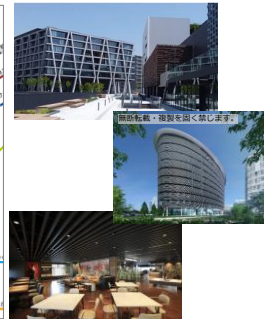
学生や教職員、産業界や地方公共団体、地域住民等との交流を促進する各施設とキャンパスマスタープランによるキャンパス全体の共創拠点化



地元産業と連携した拠点づくりをはじめ、ものづくりや医療、食などの各分野からキャンパス全体の共創拠点化を推進



各キャンパスの立地や研究領域の特性を生かしつつ、キャンパス全体のワークビリティを高めるなど、特色ある共創拠点化を推進



### 【共通】デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備

- ・ **多様な学生・研究者等のニーズも踏まえ、デジタル技術を最大限活用した上で、対面による教育研究のメリット・効果を最大限生かせる環境整備が重要**
- ・ キャンパスが「**スマートシティ**」の取組に資する**実証を行う場としてイノベーションハブとなる等、実空間の価値を生かしていくことが重要**



デジタル化の体制強化と合わせた情報化推進統合拠点の整備  
キャンパスを実証の場として、研究成果の技術検証やビジネスモデルの検証を継続的に実施

### ①成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備

- ・ **DXやGX等の成長分野等の社会課題に対応した人材育成や研究の強化を支える施設環境の確保が必要**
- ・ **地域や産業界等との共創や分野を超えた共創を支える環境整備が重要**



脱炭素社会実現のための共創拠点  
多様な交流を促進するオープンラボ

### ②地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備

- ・ **地域連携プラットフォームと連携した共創拠点の整備や地域産業振興・スタートアップ創出のための拠点整備が重要**



屋外空間も含め地域と大学をつなぐ共創拠点の整備  
産学連携のスタートアップ拠点

### ③多様な主体に開かれた魅力ある環境整備

- ・ ジェンダー、年齢、国籍、障害の有無等の**多様性を受け入れる環境整備が重要**
- ・ **生活環境や出産や育児等との両立にも配慮した環境整備も重要**



多様な学生・リカレント教育の場  
大学・高専・産業界・市が共同運営するコワーキングスペース

### ④グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備

- ・ 国内外の学生や研究者を惹きつける**キャンパスの質及び魅力の向上を図っていくことが急務**
- ・ 国際的にも**魅力ある教育研究環境の整備、混住型宿舎等の生活環境の整備、国際交流・発信拠点の整備**等が重要



多様な交流を支える国際宿舎  
日本文化の研究・発信拠点

## 今後の推進方策

第1部  
第3章

- **国は、予算のより一層の確保・充実や情報発信の強化、多様な財源の確保や制度の活用に向けた取組の推進等**に取り組むことが重要。
- **国立大学法人等は、各大学等の強みや方向性を踏まえた共創拠点化の取組の推進や共創活動を推進する体制づくり**（施設系職員の活躍・育成やURA等の育成・確保、共創に係る対外的な窓口の明確化と学内連携体制の構築等）等に取り組むことが重要。
- **地方公共団体・産業界は、共創拠点化の企画段階からの参画や必要な予算確保、体制強化、各施策との連携等**に取り組むことを期待。



＜産学官連携したまちづくりと一体となった共創拠点化の取組＞  
千葉県柏の葉地区における公民学連携による地域の共創拠点化の取組や東京都八雲洲地区における社会人教育の展開

## 国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議委員 名簿

氏名	役職
五十嵐 克也	日本商工会議所理事・企画調査部長
池田 三知子	一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部長
岩村 水樹	東京大学理事（総長ビジョン推進担当）， グーグルバイスプレジデント
上野 武	千葉大学名誉教授
大村 秀章	愛知県知事
片岡 郁雄	香川大学理事・副学長（研究・産学連携・教員評価担当）
金子 慎治	広島大学理事・副学長（グローバル化担当）
倉田 直道	工学院大学名誉教授
後藤 景子	奈良女子大学特任教授
篠原 聡子	日本女子大学学長
下條 真司	青森大学ソフトウェア情報学部教授
竹内 比呂也	千葉大学副学長，人文科学研究院教授
恒川 和久	名古屋大学大学院工学研究科教授
出口 敦	東京大学副学長，大学院新領域創成科学研究科教授
土井 美和子	国立研究開発法人情報通信研究機構監事，東北大学理事，奈良先端科学技術大学院大学理事
西尾 章治郎	大阪大学総長
山内 正則	高エネルギー加速器研究機構長

（以上17名，敬称略，五十音順）

（令和5年9月30日現在）